

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第212号

令和4年(2022)10月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-14-1 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

ヤブラン (リリオペ)

風に秋の気配を感じる頃、美しい葉の中から薄紫の花穂がいくつも立ち上がります。

写真のような斑入りのヤブランは園芸種で、他に濃い青紫の花や白色の花もあるようです。

青葉のヤブランは、日本各地の林などで見られる常緑の多年草で、藪に生え、葉がランに似ていることが名前の由来です。8月～10月頃に薄紫の花を咲かせ、やがて光沢のある黒い実をつけます。しかし、黒い実に見えるのは種で、実の皮が早く落ちて種がむき出しのまま成長するという変わった性質があります。また根には、肥大する部分があります。それを乾燥させて漢方薬として使うことがあります。

花言葉は「忍耐」「謙虚」。

(小山一丁目・河原 マサ江)



令和4年9月3日
後地小学校にて撮影

二度目の東京オリンピック



屋上の物置にさ
永年の風雨にさ
らされて、壊れ
てしまいました。
中は、ほとんど
使うことのない
物でいっぱい
でした。もう潮時
と覚悟して、捨
てようと思っ
て整理を
始めました。

古い衣類や、使い古しのカバンなど、次々とゴミ袋に放り込みました。衣装ケースの下の方から、ビニール袋に入った日の丸が付いた白いTシャツが出てきました。すっかり忘れていましたが、広げてみると、私が高校生の時に、東京オリンピックの聖火ランナーを務めた時のTシャツでした。

昨年の東京オリンピックも感慨深く見
ていました。前回のオリンピックの時、
国立競技場に最終ランナーとして入っ
てきたのは、忘れもしない坂井義則さん
でした。聖火を掲げ、堂々と力強く階段
駆け上り、聖火台に点火した時は、自分
もこの聖火を運んだと胸がいっぱいにな
りました。あの時の聖火リレーは、聖火
を掲げたランナーに続き、予備のトーチ

日本のものづくりを支えてきた町工場

を
持
っ
た
従
走
者
が
2
人
。
そ
の
後
を
10
人
程
が
走
り
ま
し
た
。
皆
同
じ
白
い
T
シ
ャ
ツ
を
着
て
い
ま
し
た
。
も
ち
ろ
ん
日
の
丸
入
り
で
す
。
白
バ
イ
に
先
導
さ
れ
、
1
・
2
k
m
の
県
道
を
沿
道
の
人
々
の
拍
手
を
受
け
な
が
ら
、
胸
を
張
っ
て
走
り
ま
し
た
。
と
も
も
誇
ら
し
か
つ
た
の
を
覚
え
て
い
ま
す
。
T
シ
ャ
ツ
は
綺
麗
に
し
て
、
大
切
に
保
管
し
よ
う
と
思
っ
て
い
ま
す
。
私
の
宝
物
で
す
。
(中原共和・青木 富代)

明治昭和初期は荏原地区のほとんど
が農地や雑木林として利用されていま
した。その後、大正12年に目蒲線、昭和2
年に大井町線、池上線が開通し、駅周
辺を中心に商店街が形成されました。さら
に昭和初期から町工場が立地し始め、昭
和40年代にかけて住宅、工場共存の市街
地が出来上がりました。

荏原第一地区小山四丁目ではその頃、
数十軒の工場が建てられ、ほとんどが住
宅地の一角、住居兼用として稼働してい
ました。町内を歩いてみると「トントン」
、「ブーン」、「キーン」と小気味よい音が工
場から聞こえてきます。知り合いの職人
さんにお話を聞いてみると金属加工品を
製作しているところでした。そこで、と
ても難しそうな図面を見せていただきま

高齢者クラブ紹介

西部二寿会 (小山二丁目西部町会)



小山二丁目西部町会に住
居を置く60歳以上の人を
対象に、友愛、福祉、親睦
をモットーに、昭和54年
8月に総勢105名の会員
で発足しました。

西部二寿会の行事として、
春は花づくり推進、お花見
会、防災訓練、夏は盆踊り
納涼会、秋はお祭り、芸能大会、冬は新年会、輪投げ会等
のサークル活動をしています。

定期活動として、役員会を月1回開催し、カラオケの練
習、輪投げ又はボッチャ、お稲荷さんの手入れをそれぞれ
月2回、お地蔵さんの掃除およびクマさん広場と緑道の花
壇の手入れは毎日実施しております。

日頃から草花の手入れをすることで、緑道化していく町
並みを間近で見ることができます。結果として、楽しみなが
ら手入れができ、毎日の健康増進にもつながっているよう
に思います。

皆様の入会をお待ちしております。

(西部二寿会会長・本間 恵也)

シリーズ

品川平塚剣友会⑧

「またる審査会」

(小山四丁目・東美佐栄)

別の工場でも、ガスホースのバルブや
アルミの加工品などを製作しています。
町工場では熟練技術者が長年にわたり、
「人」にしかできない仕事に携わってい
ます。仕事を覚え始めた頃、近所の先輩
の職人さんに加工のコツを伝授してもら
ったと聞き、技術は継承されていること
を認識しました。大きな機械の中の小さ
な部品ではありますが、図面通りの超精
密な加工技術の結晶が大きな機械を動か
しているのです。改めて、町工場が支え
てきたものづくりの偉大さに驚かされま
した。

ご近所の工場を覗いてみませんか。職
人さんの、部品に対する愛着心に触れる
ことができると思います。



審査の結果、
皆合格致しまし
ました。普段の稽
古で心配してい
た子もいました
が、その心配を
払拭してくれま
した。実力のあ
る子は立派に立
ち回りをし、実
力を発揮し、心
配な子は大きな
声を出して戦っ
てくれました。

6月24日に総合体育館にて待ちに待っ
た審査会が行われました。本審査会にて
10名が初陣を飾りました。審査会とは、
技量の区分も有りますが、竹刀による実
技と木刀による形の審査が有り、段位に
は学科も含まれます。其れだけに、教わ
る方も指導をする先生も気持ちを一につ
にします。子どもは合格を喜び、指導者は
その成長を見て喜びを感じます。剣道の
良さの所以でしょうか。

指導者一同感動する瞬間です。普段の教
えが違っていないかつたと自覚できる瞬間
でもありません。5級から1級まで13名、
母子で始めたお母さんは、念願の有段者
として合格。1級の中学生は来年には初
段に挑戦します。皆、品川平塚剣友会を
盛り立ててくれるメンバーです。

今年の目標であり、念願の日本武道館
で、少年少女剣道練成会に参加します。
来年の目標は、40周年記念大会をささや
かに行う事です。全日本剣道連盟から表
彰される『少年剣道教育奨励賞』の推薦
を頂いております。次回の報告が出来
ればと思います。子どもたちと稽古に励んで
まいります。

(荏原三丁目・池田 晴夫)